

恒久平和の願い込め

登米市戦没者追悼式 終戦70周年記念式典 同記念コンサートを開催

登米市戦没者追悼式は8月21日、登米祝祭劇場で開かれ、遺族など約450人が参列し、終戦70年の節目に恒久平和を誓いました。

黙祷後、布施孝尚市長は「私たちは恒久平和を強く願い、誤った歴史を繰り返さないよう、戦争の悲惨さと平和の尊さを次世代に伝えていかなければなりません」と式辞を述べました。

村井嘉浩県知事（代読）などの追悼のことばに続いて、参列者全員が献花をし、静かに手を合わせ戦没者3459人の冥福を祈りました。

式後、登米市遺族会の終戦70周年記念式典とその記念事業として陸上自衛隊東北方面音楽隊による記念コンサートが開かれました。



戦争のない平和な現代。70年前に戦争があった事実を風化させず、未来に語り継いでいくことが私たちの使命です。



白菊を供え、手を合わせる参列者たち。恒久の平和を戦没者に誓いました。



見事な演奏と歌で遺族の心を和ませた。陸上自衛隊東北方面音楽隊。アンコールでは「登米市市民歌」を演奏しました。

【遺族の声】千葉正志さん（中田町野元）

父親は、小学3年の時に硫黄島で戦死しました。非常につらく悲しい思い出です。戦後の生活はどこも楽ではありませんでした。一家の大黒柱をなくした家庭は、特に大変でした。農家の仕事や地域の行事などがこんなに大変なのかと、あらためて父親のありがたみを痛感しました。毎日、泣きたくてのを我慢して過ごしていましたね。戦争などなくなってほしい、再び起きないでほしいと願いました。

あれから70年、毎年お盆が近づくと当時のつらい思い出がよみがえります。この思いは、後世に味わせたくないと思いました。国を守るために命を落とした多くの先人がいることで、平和な世の中があることを、若い皆さんには忘れないでほしいです。決して過去のことと風化させずに、自分たちの子ども、またその子どもたちに語り継いでほしいと思います。

楽しく認知症予防を

本市初の回想法講座開催

回想法講座「語らおう会！とめカフェ」（国立研究開発法人国立長寿医療研究センター主催）は8月30日、迫公民館で開かれ、約60人が参加しました。

回想法は、高齢者の昔の話を聞くことで、心理的な安定や記憶力の改善を図る療法。講座では、「いきいき楽しく過ごすためには」を題にグループワーク形式で意見を交わしました。

中田町二ツ木から参加した三浦康子さんは「以前、回想法の本を読み、このような講座を探していました。この講座で回想法を学び、自分だけではなく周囲の認知症予防にも役立てたいです」と話していました。



グループワークでは、「楽しくお茶飲み」や「カラオケ」など自由に意見を書き出し、アイデアを出し合いました。
※認知機能検査を含む心理検査のみの希望者を受け付けますので、10月9日(金)まで長寿介護課（0220-58-5551）へお問い合わせください。

古里を語るひととき

在京町人会連総会を開催

本市出身の首都圏在住者たちで組織する在京町人会連絡協議会（遠藤誠幸会長）総会は7月22日、東京都台東区の東天紅上野店を会場に開催され、19人が出席しました。

総会では、事業報告や決算などについて審議されたほか、首都圏での登米市農産品の販売、登米市の夏のイベント、市民歌制定やふるさと応援寄附金の謝礼品拡充など、市の取り組みが紹介されました。総会終了後は、各町人会の近況報告や情報交換をし、登米市出身者の結びつきを強め、有意義なひとときを過ごしました。



総会後は懇親会を開き、大いに盛り上がりました。登米市合併10周年記念DVDなどを上映し、古里の情報を共有しました。

商売の難しさを実感

市内の中高生が起業体験

中高生が起業、創業に関わる一連の過程を体験する中高生起業体験プログラム in 登米は7月24日から実施、8月8、9日に迫町梅ノ木のウジエスーパー佐沼本店の駐車場に模擬店を設置し、商品を販売しました。

このプログラムには、市内の中高生16人が参加。4つのグループに分かれ、販売商品や事業計画の決定、資金調達など、市内の経営者からアドバイスを受けながら進めました。当日は肌寒く、カキ氷など冷たいものを販売したグループは苦戦。登米高2年の伊藤舞梨さんは「利益を出すのがこんなに難しいとは思いませんでした」と話していました。



お客さんからは「持ち帰りのコーヒーなどがあると良かった」などの声もあり、文化祭などと違い本物の難しさを痛感。

夏の終わりを楽しむ

章太郎記念館夏祭り開催

石ノ森章太郎ふるさと記念館夏祭りは8月22日、同記念館駐車場などで開催されました。

夏祭りでは、地元石森の若者グループ「石若会」のおみこし練り歩き、中田町上沼のよさこいダンスチーム「舞姿道みろく」のダンスなどが披露され、集まった来場者を楽しませました。一番人気のお楽しみ抽選会は、3万円の旅行券や自転車など豪華景品が当たるので、みんな当選結果に一喜一憂。見事3万円の旅行券が当たった中田町南町の境秋洋さんは大喜び。「運営している保育所の園児と福祉施設の入所者に役立つ使い方を考えます」と話していました。



催し参加者だけではなく、来場者も一緒にダンスを踊るなど、夏の終わりの祭りをみんなで楽しみました。